大手町・丸の内・有楽町のまちづくり

On!

2025 / Autumn

Vol. 55

特集 これからの有楽町を考える

これからの有楽町を考える。

**有楽町では、2023年に「有楽町まちづくりビジョン」が策定され、
概ね20年後を見据えたまちづくりが始まっています。
今回は、有楽町まちづくりビジョン策定委員会で委員長を務める岸井隆幸教授と、
有楽町に本社を構える株式会社ニッポン放送に勤めて40年以上という常務取締役の田中成明さんに、
これからの有楽町が目指すべき姿についてお話を伺いました。**

有楽町まちづくりビジョンについてはこちら

東京交通会館3F 屋上有楽町コリーヌにて撮影

交通の便が良く、人が集まる場所

森下　まずは、お二人の有楽町にまつわる思い出を教えてください。

田中　初めて有楽町に来たのは、小学生の時でした。社会科見学で新聞社に行ったのですが、大きな輪転機を見て衝撃を受けたのを覚えています。社会人になり、有楽町に本社を構えるラジオ局に入社して、40年以上この街で働いています。入社したばかりの頃は、ちょうど有楽町マリオンができたばかりで、今ビックカメラ有楽町店がある場所には有楽町そごうがありました。その当時から比べると、まちの風景は随分変わりましたね。

岸井　私は、幼い頃に家族で銀座のデパートに出かける時に、有楽町に行っていたのをよく覚えています。数寄屋橋交差点の角に今でもある不二家に行くのが楽しみだったんです。社会人になってからは、東京国際フォーラムや帝国ホテルなど、有楽町駅の西側に行く機会が多くなりました。そんな中で、大丸有まちづくり協議会の取り組みにご一緒させていただく機会をいただいて、かれこれ30年以上になると思います。

吉本　お二人ともそんなに長い間このまちに携わってくださっているんですね！有楽町のまちは、どういったところに魅力があると感じていますか？

田中　やっぱり交通の便が良いところですね。仕事柄、取材に行くことも多いのですが、国会や野球場にも近く、交通の便がとても良いので、どこでニュースがあっても真っ先に向かうことができるんです。

岸井　ＪＲとメトロの距離感も良いですよね。ＪＲ有楽町駅と割と近いところにメトロの駅が複数あるので、乗り換えが便利なんです。

田中　一時期、本社を建て替えるために勤務地がお台場になったことがあったのですが、通勤時間が往復１時間も長くなってしまって大変でした。うちの社員も有楽町に愛着を持っているようで、度々「有楽町から出たくない！」と反対意見が上がります。

岸井　それぞれ特徴が異なる地区が隣接しているのも魅力的です。有楽町は、大企業が集まる丸の内や八重洲、文化・芸術施設が集積する日比谷、日本有数の商業地区かつ観光地でもある銀座に囲まれ、皇居外苑や日比谷公園など歴史的・文化的価値の高い都市資源も徒歩圏内にあります。東京国際フォーラムのようなＭＩＣＥ*1の施設もあり、様々なところから人が集まってくる場所でもあると思います。

20年後の有楽町を見据えたビジョン

森下　２０２３年に「有楽町まちづくりビジョン」が策定されましたが、改めて経緯を伺っても良いでしょうか？

岸井　"大丸有"としてのまちづくりについては、１９８８年*2から議論されてきましたが、これまで丸の内や大手町が中心で、有楽町については議論が少し遅れていました。一方で、有楽町駅の西側には築40年を超える建物が増えてきていて、建て替えの計画とともに、有楽町としてどのような未来を目指すべきか、ようやく議論が始まったと言えます。大丸有のまちづくりは、全体として大きな方向性や共通で守るべきルールを決めていますが、大手町、丸の内、有楽町、それぞれのまちの開発は、それぞれの地域特性に合わせて進めています。そこで発足した有楽町まちづくりビジョン策定委員会において、有楽町地区の特徴や課題について議論を重ね、有楽町の目指すべき将来像を設定しました。

吉本　それが、"新たな出逢い・交流・発信の拠点「ＴＯＫＹＯの何かに、誰かに出逢う街」～有楽町で逢い

交通の利便性を活かした"有楽町らしい"未来に期待しています

大丸有まちづくり協議会 都市運営・プロモーション部会長
株式会社ニッポン放送 常務取締役
田中成明さん

聞き手のお二人

一般社団法人
大手町・丸の内・有楽町地区
まちづくり協議会 事務局
吉本朝子さん

一般社団法人
大手町・丸の内・有楽町地区
まちづくり協議会 事務局
森下尚さん

※1 企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition / Event）の頭文字を使った造語。
※2 1988年に「大手町・丸の内・有楽町地区再開発計画推進協議会」（大丸有協議会の前身）が設立。

©イラスト:イスナデザイン(東京高速道路(株)提供)　※この図はKK線再生に向けた検討内容をイメージ化したものです。

ましょう〜"ですね。詳しく教えていただけますか。

岸井　有楽町の魅力でもお話したように、このまちは交通の便が良く、様々な場所にアクセスしやすいほか、徒歩圏内の隣接する地域も多様性に満ちていて、様々なところから人が集まってくる場所でもあります。有楽町はアクセスの拠点、都市活動の拠点となり、みなさんが「有楽町に行けば何かに出逢えるかもしれない、誰かに出逢えるかもしれない、移り変わる東京の"今"を感じられるかもしれない」といったような期待を抱いていただける空間を作っていきたいと考えています。

田中　"有楽町で逢いましょう"というキャッチフレーズも親しみやすくていいですよね。

岸井　元々は、1957年に開店した有楽町そごうの広告で使われていたキャッチフレーズで、歌手のフランク永井さんが同タイトルのキャンペーンソングを歌い、大ヒットしました。委員会で他の案も検討したのですが、たくさんの人に取り組みを知っていただくためにも、親しみのあるこのキャッチフレーズを使わせていただきました。

森下　「有楽町まちづくりビジョン」は概ね20年後を目安としていますが、具体的にどのような未来を描いていますか?

岸井　銀座をぐるりと囲むように作られた東京高速道路(KK線)は、2025年4月に廃止されましたが、今後全長約2kmにわたる歩行者中心の公共空間へと生まれ変わり、現在大規模再開発を行っている築地へと緩やかにつながっていきます。築地市場の跡地には、大きなMICE施設が建設される予定です。さらに、2040年頃には東京駅を起点に、銀座、築地、晴海を経由し、有明地区まで結ぶ新線「都心部・臨海地域地下鉄」が開業する計画になっています。将来的には、東京国際フォーラムと、築地の大規模MICE施設、東京ビッグサイトが、有楽町を拠点につながることになり、このまちが、最新情報や最新技術の受け皿となる多様なMICEのハブになることで、次の日本の大きな力になれたらと考えています。

田中　有楽町線も、今後押上駅までつながる計画のようです。スカイツリーにもアクセスしやすくなるので、観光の面からも、有楽町がさらに重要な拠点になっていくことを期待しています。

「余白」を大事にしたまちづくり

森下　将来像として掲げている「新たな出逢い・交流・発信の拠点」を実現するためには、どのようなことが重要になるでしょうか?

岸井　丸の内仲通りや、東京駅の目の前にある行幸通りのような、人々が座りたくなるような、立ち止まりたくなるような「余白」を大事にしたいと考えています。「有楽町まちづくりビジョン」では、ビルの建て替えに合わせて、そういった都市空間の余白=ヴォイドも一緒に設計されていく予定です。

森下　誰でも立ち入れる公的空間や、多様な活動のフィールドとなる空間をヴォイドと呼んでいますが、具体的にはどのようなイメージをお持ちでしょうか?

田中　有楽町の近くですと、数寄屋橋交差点が私にとってのヴォイドのイメージです。一角に小さな公園があって、ふと立ち止まりたくなってしまうんですよね。

岸井　そうですね。今の時代に合ったヴォイドが求められていると思います。新宿駅西口に作られた螺旋状の車路もヴォイドと言えますが、車を中心に考えて設計されたもので、人が集まって立ち止まったりできる場所ではありません。車両専用道路だったKK線が歩行者専用の空間に生まれ変わるように、今は温かみのある、人間のためのスペースを充実させていくことが必要だと考えています。

森下　ソフト面では、「TIB」や「YAU」*といった、有楽町で新しい場所や新しい出逢いを生み出しているコミュニティが続々増えていて、人と人のつながりによって、有楽町の可能性がさらに広がっていることを実感しています。

"有楽町らしさ"は残していく

吉本　これまで、進化する有楽町のお話をしてきましたが、逆に残しておきたいと感じる部分はあるでしょうか?

田中　JRのガード下は、有楽町らしい風景だと思うので、どれだけ有楽町が変わっていっても、残していけたらいいですね。まちづくりは新しくするだけではなく、良い部分は残しつつ変わっていくのが理想的だと考えています。

岸井　大手町、丸の内、有楽町で、まちの雰囲気はそれぞれ違いますし、違うから良いんだと思います。隣りあう地域にそれぞれ違う魅力があるからこそ、お互い刺激し合いながら、接合する部分で新しいものが生まれるような気がします。

森下　有楽町は今後どのように変わっていくでしょうか?

岸井　「有楽町まちづくりビジョン」を策定しましたが、有楽町が変わっていくことで何が生まれるか、はっきり言うことはできません。様々なことが同時多発的に起きていて、思いもよらなかったものが生まれるかもしれません。色々な可能性が秘められていると思います。

田中　変わっていく途中経過も伝えていけると良いですよね。会社の中で「有楽町まちづくりビジョン」について説明する場を設けているのですが、エンターテインメントの一端を担う会社として、より多くの方に知っていただくために、どんな情報発信ができるか議論しているところです。

森下　20年後の未来を見据えて、有楽町は変化していきますが、大丸有まちづくり協議会でも、そこに至るプロセスをきちんと発信していけたらと考えています。

吉本　最後に、有楽町を一言で表すなら、どんな言葉があてはまるでしょうか?

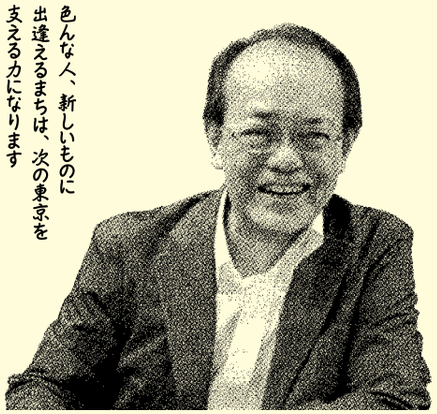
田中　私はシンプルに「楽しいまち」だと思います。有楽町で働くワーカーにとっても、来街者にとっても、とても魅力的なまちです。

森下　私は「夢があるまち」だと思います。有楽町らしさを残した理想的なビジョンもありますし、今日お話を伺って、"出逢い"や"交流"といったキーワードからどんなことが生まれるのかわからない、色々な可能性を秘めた、まさに夢が詰まったエリアだと改めて感じました。

吉本　大手町にも、丸の内にもない有楽町らしさを表すなら、「チャーミングなまち」だと思います。色々な表情があって、純粋に大好きなまちです。

岸井　まちづくりビジョンの冒頭にも書かせていただいたのですが、有楽町は「出逢いのまち」だと思います。このまちに来れば、色んな人との出逢いがあって、TOKYOの新しいものにも出逢える。これまでもそういうまちでしたし、これからもそういうまちであり続けることで、次のTOKYOを支える力になると考えています。

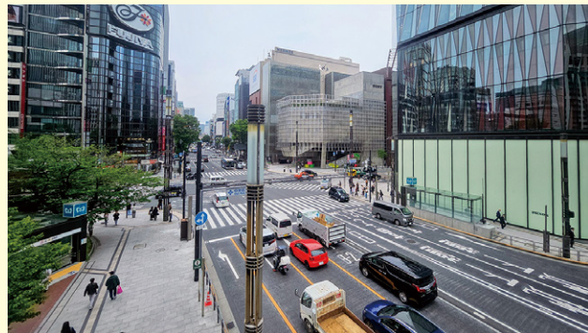
田中　そうした激励のお言葉は、大変励みになります。本日はありがとうございました。



色んな人、新しいものに出逢えるまちは、次の東京を支える力になります

日本大学名誉教授・政策研究大学院大学 客員教授
有楽町まちづくりビジョン策定委員会 委員長
岸井隆幸教授

ヴォイドの例:KK線からみた数寄屋橋交差点



※TIB:Tokyo Innovation Base / YAU:有楽町アートアーバニズム<YAU>

有楽町で“新しい出逢い”を生み出す インキュベーションコミュニティ

今、有楽町には、人と人がつながり、アイデアを形にする新しいコミュニティが続々と生まれています。有楽町のまちの特性を活かした活動をご紹介します。

What is Incubation?
英語で「孵化」を意味することから、起業や新規事業開発を支援する活動全般を指す。

TiB Tokyo Innovation Base

東京都千代田区丸の内3丁目8−3

国内外のスタートアップやその支援者が集い、交流する一大拠点

2023年11月に東京・有楽町駅の目の前にオープンした、東京都が運営する国内最大級のスタートアップ支援拠点。スタートアップと支援者が集い、交流する場として、イベントの開催や起業・製品開発の支援など、スタートアップの成長を手厚くサポートしています。開設以来、これまで20万人を超える来場者を迎えるとともに、イノベーションの創出やスタートアップの成長を後押しするイベントを1,000回以上開催するなど、多様なプレイヤーをつなげる結節点(NODE)としての活動を積極的に進めています。TIBの空間は、組織や地域の垣根なくフラットに出会い、交流できる場として設計。壁は設けず、交流を促すようなオープンな空間で、什器や内装はあえて種類を統一せずポップでユニークなデザインにすることで、訪れる方々の多様性を表現しています。

コミュニティマネージャーが中心となって連日開催しているMeetupイベント　スタートアップの成長を後押しする支援プログラム

Q.なぜ有楽町に拠点を築いたのですか?

東京には、渋谷や本郷、六本木や虎ノ門など、多くのスタートアップエコシステムが点在しています。アクセスも抜群で東京の中心に位置する有楽町にTIBを開設することで、それらのエコシステムを繋げ、多様なプレイヤーによるスタートアップへの幅広い支援が展開されることを狙いとしています。

YAU YURAKUCHO ART URBANISM

東京都中央区銀座二丁目3番先 東京高速道路北有楽ビル1階16号室

アーティストとまちが交流し、イノベーションを起こす

2022年2月にスタートした、有楽町のまちを拠点とする、まちづくりの実証実験プログラム。日本有数のビジネス街であり、企業の集積地でもある大丸有エリアにアーティストを呼び込み、その活動をまちで展開し、企業との協働を誘引したりすることで、企業や社会のクリエイティビティやイノベーション力の向上を図ることを目的とし、活動しています。立ち上げ当初は、ビジネス街にアーティストの活動の場をつくることを目指したプログラムを展開し、徐々にコミュニティとして機能し始めた段階で、まちの中に出て、よりパブリックに活動を展開。東京都や東京藝術大学、他地域や各国の大使館などとの連携も深めてきました。また、2025年4月より拠点が「北有楽ビル」へ移転。現在は、これまでの活動も継続しつつ、より大丸有エリアの企業とアーティストが協業する取り組みに力を入れています。

構成員:大丸有エリアマネジメント協会、大丸有まちづくり協議会、三菱地所

まちなかで展示やパフォーマンスを積極的に企画し、大丸有エリアの方にアーティストの活動に触れていただく機会を作っています。また、ワーカーの方が参加できる独自のラーニングのプログラムにも力を入れています。

Photo by Natsuki Kuroda, TTT, Tomoaki Kasuga

Q.空間/デザイン/イベントに込めた思いを教えてください。

オフィス区画の一室をリノベーションしたスタジオは、様々な活動が干渉しながら混ざるように、間仕切りなどは設けておらず、使っている人同士が自然と交流ができるように設計しています。

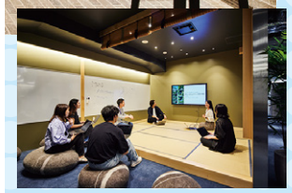
SAAI Wonder Working Community

東京都千代田区丸の内3丁目3−1 新東京ビル 1階

多様な価値観を持った「個」が集い、新しい感性と出逢い、思いつきを力タチにする

「SAAI」とは
彩(集うヒトの多様性)、才(=異能・異才が集まる空間)、祭(=出会い、交わり、刺激されるイベント)、斎(=好きなことに集中・没頭できる空間)の意味を込めた読みと、「差(SA)」を「愛する(AI)」というコンセプトを体現する言葉の2つを組み合わせた造語です。

2020年に開設した「SAAI」は、個人単位のアイデアを形にするワーキングコミュニティです。「新有楽町ビル」の閉館にともない、2023年11月に新東京ビルに移転し、地下1階・1階・4階の3フロアを拠点にしています。スタートアップ人材や起業家はもちろんのこと、企業に在籍しながら何か新しいことに挑戦したい方、新規事業担当として自社内で事業を模索している方など、既存の枠にとらわれない「個」を育み、兼業・副業時代に個人が活躍できるコミュニティを目指しています。開業時から、会員の事業創造を伴走できるように様々なプログラムを実施。現在では「01 Start」ビジネスプランコンテストや、月1回の頻度で多くのベンチャーキャピタル(VC)を招聘する「SAAI VC Day」など、数多くのプログラムで会員の成果・実績に貢献しています。



地下1階にはお座敷スペースも。多様なワークスペースから、自由な発想が生まれます。

会員同士の交流を促進するバーも完備。事業のアイデアを生み出す刺激を提供します。

Q.なぜ有楽町に拠点を築いたのですか?

これからの有楽町を、人やアイデアがさらに磨かれるまちへと進化させるべく、人の活動をまちづくりの中心に据え、見出した様々な人・アイデア・コト・モノをcultivate(交わり・耕し・育み・磨く)し、次の時代を担うスターが生まれる“仕組み”を有楽町で作り上げていきます。

recoto

東京都千代田区丸の内三丁目3番1号 新東京ビル 4階

日本初 サステナブル領域のナレッジ・インスティテュート※1

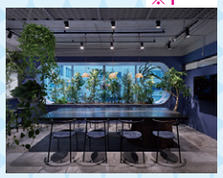
Regenerative Community Tokyoは、大丸有エリアのまちづくりにおいてサステナブルビジネスを推進し、「リジェネラティブ※2」な社会を実現するべく、それら領域のビジネスに取り組む多様なステークホルダーやナレッジを集結させることでコラボレーティブに都市課題にアプローチすることを目指した法人向け会員制コミュニティです。会員企業へのヒアリングや国内の各種交流イベント、海外連携パートナーとの合同イベント等を通じて、特定の課題にアプローチしたい企業同士や先進的なナレッジをもつパートナー組織を繋げ、都市課題を解決するプロジェクト・ビジネス創出を目指します。

※1「ナレッジ・インスティテュート」とは:ナレッジを持つ人々の集合体。官公庁や民間企業、スタートアップ、教育機関、研究機関などの人や組織が協働してプロジェクトを立ち上げ、知識を共有することで、一組織では成し得ない革新的な成果、技術やソリューションの進化が促進される独自のネットワーク形成を目指します。

※2「リジェネラティブ」とは:自然や社会のシステムを「維持」するサステナブル(持続可能)に対し、「再生・改善」することを目指す、より積極的で未来志向の概念・アプローチ。

Q.まちと人を繋げることをどのような形で実践されていますか?

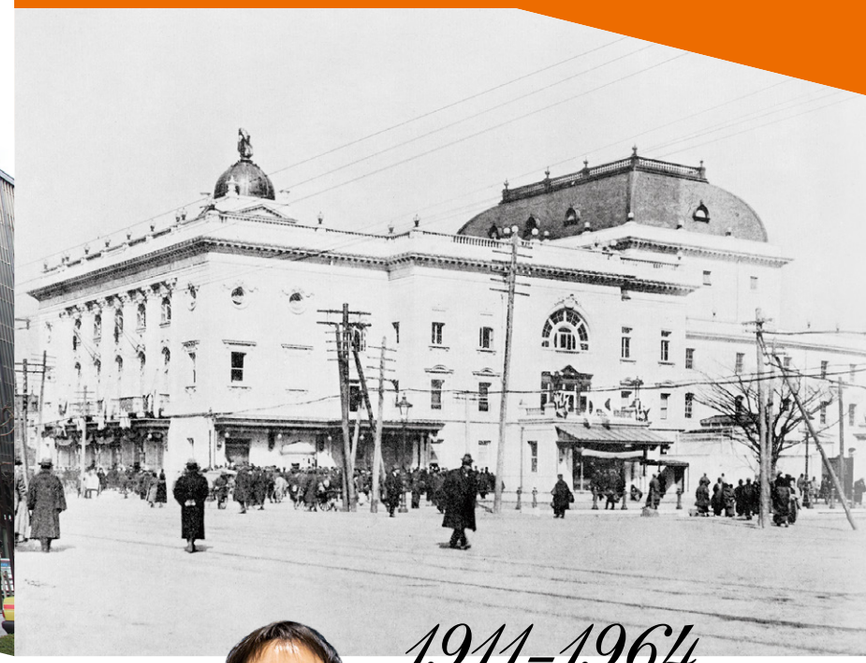
オランダやデンマークのパートナー組織に加えて、運営主体の三菱地所が持つ大丸有エリア内のネットワーク等リソースを活用し、国内外の多様なプレーヤーとの協業を目指しています。



時代とともに、変化し続ける

帝国劇場の「これまで」と「これから」

2025年2月に帝国劇場が閉館し、現在は、新しく生まれ変わるための準備に入っています。このまちで多くの人に親しまれてきた帝国劇場の歴史を振り返りながら、帝国劇場の元支配人 中山周さんに、新しい帝国劇場への想いを伺いました。



1911–1964

建築家は横河民輔。伊藤博文、渋沢栄一らが発起人となり、実業家・大倉喜八郎の主導により建設されました。

Profile

東宝株式会社
エンタテインメントユニット
演劇本部 演劇部
興行統括室長 兼 帝国劇場の元支配人

中山周さん

日本の演劇文化を象徴する劇場

1911年に開場した初代の帝国劇場は、日本で初めての本格的な西洋劇場として建設されました。白亜の殿堂と呼ばれた豪奢なつくりの劇場では、歌舞伎やシェイクスピア劇、バレエなどが上演され、1923年の関東大震災で内部が焼け落ちたものの、翌年には改修をおこない、営業を再開。1964年の閉館の頃には、パノラマスクリーンの映画館として営業していました。老朽化のため一時閉館し、二代目の帝国劇場が開場したのは1966年。大規模な舞台機構を備え、『レ・ミゼラブル』や『ラ・マンチャの男』といった名作ミュージカルをはじめ、近年は『千と千尋の神隠し』や『スパイ・ファミリー』など、幅広い演劇作品を上演してきました。再開発による建て替えのため、2025年2月をもって一時閉館し、現在は、新しい帝国劇場へと生まれ変わるための準備に入っています。

「帝国劇場は、110年以上の長い歴史の中で、時代の流れとともに常に変化し続けてきました」と語るのは、支配人を務めた中山周さん。「閉館にあたり、たくさんのお客様や出演者の皆様から帝国劇場との思い出を伺い、本当に愛されていた劇場なのだと改めて感じました。演劇は、舞台上の役者の方々とお客様が同じ空間をともにして、1つの感動を共有する唯一無二のエンターテインメントです。帝国劇場らしいオーセンティックな雰囲気は継承しつつ、50年、100年と続いていく新しい時代の劇場を、お客様と一緒に作っていきたいです」。

1966–2025

意匠設計は建築家の谷口吉郎。ロビーにはステンドグラスや彫刻作品を配置し、重厚感のあるオーセンティックな雰囲気が漂います。

これまで以上に、まちに開かれた劇場へ

提供元:東宝株式会社 ©:Tetsuo Kobori Architects

隣接する国際ビルも閉館し、帝国劇場を含めた周辺地区は、これから大きく生まれ変わります。帝国劇場は、最先端の技術を備えた世界最高の劇場を目指すことはもちろん、お客様や役者、関係スタッフだけでなく、このまちで暮らす人々にとってもここちよい空間を目指します。ロビーホワイエ空間が広くなり、より快適に過ごせるとともに、劇場内には一般の方も利用できるカフェ等を併設。公演以外の時間も楽しめるようになり、劇場とまちが一体となって、地域に親しまれることを目指します。さらに、地下にも劇場ロビーを設け、エレベーター・エスカレーターで地下鉄や地上と繋がりアクセスが向上します。

大丸有でおいしい時間

今年でビル開館60周年！
歴史ある東京交通会館で
楽しむ名店の味

大手町、丸の内、有楽町でしか味わえない、
とっておきグルメをご紹介。
今回は、ＪＲ有楽町駅の東口に位置する
東京交通会館にある、昭和から続く名店の味をご案内します。

ローヤル

創業当時から変わらないチーズツナトースト ¥950（税込）

喫茶店のプリン。フルーツは季節によって変わります ¥900（税込）

千代田区有楽町2-10-1 東京交通会館地下1階　TEL 03-3214-9043
営業時間 平日8:00～19:30 土日祝 11:00～19:00　定休日 施設に準ずる　席数 95席

1965年、東京交通会館の開業とともにオープンして以来、多くの方に親しまれてきたのが、喫茶 ローヤルです。大理石やステンドグラス、シャンデリアなど、重厚感のあるインテリアは創業当時のまま変わらず、落ち着いた雰囲気でゆったり寛ぐことができます。「もともと周辺で働くワーカーの方々が多かったですが、時代の流れとともに幅広いお客様にお越しいただくようになり、それに合わせてメニューを充実させてきました」と語る支配人の野山弘さん。数あるメニューの中でも、オープン当時から根強い人気を誇るのが、チーズツナトーストです。ピザソースを塗ったバゲットにツナとチーズがたっぷり乗っていて、食べ応えは十分。昔ながらの固めの食感と濃厚な味わいの、喫茶店のプリンも人気の一品です。

昔ながらの喫茶店にしかできない体験があります。寛ぎのひとときをお過ごしください。

支配人 野山弘さん

とんかつ あけぼの

タルタルソースもマヨネーズから手作りしています。サービス定食（四種盛）¥1,300（税込）

ご飯とお味噌汁、漬物がセットになった「とんかつ定食」¥1,000（税込）

千代田区有楽町2-10-1 東京交通会館地下1階　TEL 03-3211-3934
営業時間 月火木金 11:00～14:30、17:30～20:00
水土 11:00～14:30　*なくなり次第終了　定休日 日・祝日　席数 11席

1962年に創業した「あけぼの」は、有楽町の駅前に「すし屋横丁」と呼ばれる小さな飲み屋や食堂が軒を連ねるエリアがあった時代から、手作りの味にこだわり続けてきました。「創業以来、家族経営で初代の味を守り続けています」と語るのは、二代目の中村文造さん。定番人気のとんかつ定食は、カラッと揚がった肉厚のとんかつに、手切りのキャベツがたっぷり添えられています。粗挽きの生パン粉を使ったサクサクの衣と肉質やわらかな豚肉の旨味が絶妙なバランス。エビフライ、アジフライ、一口ヒレカツ、カニクリームコロッケが一度に楽しめるサービス定食（四種盛）も魅力的です。セットの糠漬けは、なんと初代が漬けているのだそう。有楽町で時代を超えて愛される人気店です。

有楽町で守り続けてきた味。ぜひ揚げたてをご賞味ください。

店主 中村文造さん

CITY INFORMATION

2025 AUTUMN

大丸有エリアでこの秋開催予定のイベントをご紹介。
これまで知らなかったまちの魅力に触れられるチャンス!
ぜひご参加ください。

和ルミネーション2025

大手町の新たな風物詩である和傘行燈イルミネーションイベント「和ルミネーション」。2017年夏に「丸の内朝大学」で出逢った6人で、大手町の賑わい創出と歴史の発信を目的に開始しました。和傘職人と共に築き上げた本イベントのコンセプトは「まちに灯りを」。和傘と行燈の心落ち着く和のライトアップを通じて、行き交う人々がまちの歴史や文化を体感できる空間を紡ぎます。

【開催日時】10月31日（金）～11月1日（土）
【開催場所】大手町仲通り周辺
【主催】和ルミネーション実行委員会

OPEN CITY MARUNOUCHI 2025

大丸有協議会30周年を記念して2018年に始まったOPEN CITY MARUNOUCHI(通称OCM)は、日本有数のオフィス街・大丸有エリアの普段は立ち入れない施設や空間等をめぐるツアーイベントです。本年度はエリア内の施設や建築を巡るデジタルスタンプラリーやまちの風景や体験を投稿するInstagramフォトキャンペーンなど、自由に楽しめる新企画も登場。秋の大丸有を舞台に、まちづくりの取り組みや都市の魅力を体感・回遊いただける特別な機会です。

【開催日時】10月24日（金）～11月9日（日）
※ガイドプログラム（有料）は10月30日（木）～11月1日（土）
【開催場所】大手町・丸の内・有楽町エリアの施設および空間等
【主催】OPEN CITY MARUNOUCHI2025実行委員会（構成団体：当協議会、NPO法人大丸有エリアマネジメント協会、DMO TOKYO Marunouchi、三菱地所株式会社）

学生からビジネスパーソンまで
社会課題と向き合い創造性を高め合う

丸の内プラチナ大学第10期

社会課題やキャリアなど、今話題のテーマを参加者同士で学び、自分のキャリアアップのみならず、社会還元できる人を目指す全9コースのプログラム。創造性を高め、起業や地域・社会貢献など様々な可能性を広げます。

【開催日時】9月4日（木）～2026年3月中旬
【開催場所】3×3Lab Future など（コースによりフィールドワークも開催）
【主催】企画：未来共創イニシアティブ 企画・事務局：エコッツェリア協会、一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク、株式会社サンブラックス

月に一度の“視点転換”
大丸有の新たな魅力を発見する

大丸有シゼンノコパン

シゼンノコパン（『コパン』は仏語で『友達』）は、皇居からつながる大丸有の自然を通じて、人と人、人とまちがつながり、新しいコトをみつける場。スペシャリストと共に、いつものまちへ出かけてみませんか。

【開催日時】毎月1回 ※詳細はQRコードをご覧ください
【開催場所】3×3Lab Future 大丸有エリアの緑地など
【共催】東京建物株式会社、三井物産株式会社、三井不動産株式会社、三菱地所株式会社、エコッツェリア協会

有楽祭～東京交通会館開館60周年～

おかげさまで開館60周年を迎え、恒例の有楽祭を地域と連携し、例年以上に盛大に実施します。豪華賞品が当たるガラポン抽選会や25日には有楽町企業対抗腕相撲大会、更に27日には、駅前広場で実施の「全国ふるさとうまいもの市 in 有楽町」と連動した各地のゆるキャラファッションショーをはじめとしたステージイベントも予定！ぜひお楽しみください。

【開 催 日】9月22日（月）～9月28日（日）
【開催場所】東京交通会館ビル内
【主催】東京交通会館名店会 【協賛】㈱東京交通会館
【協力】㈱ニッポン放送 【後援】千代田区、有楽町町会

東京交通会館
開館60周年記念イベント

「有楽町で呑みましょう♪」

～日本の銘酒と全国おつまみフェスティバル～

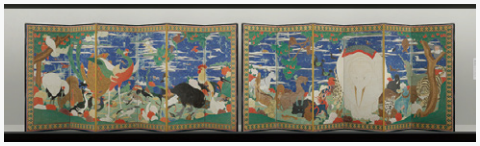
日本全国の酒蔵が集結し、銘酒を飲み比べできる試飲イベント。沖縄エイサーや津軽三味線などの音楽文化を楽しみながら、初秋の一夜を楽しみましょう。そのほかアンテナショップやキッチンカーにてお酒に合うおつまみなどの販売も予定。日本酒以外のドリンクもあるので、お気軽にご参加ください。

【開 催 日】9月26日（金）
【開催場所】東京交通会館ビル1階ピロティ
【主催】（株）東京交通会館、千代田区、中央区
【協力】㈱ニッポン放送 【後援】東京交通会館名店会、有楽町町会

ART INFORMATION

出光美術館デジタルミュージアム

帝劇ビル9階にあった展示室を再現したデジタルミュージアムを今年4月に公開しました。1966年の開館以来、多くの来館者に親しまれてきた同館は、ビル建て替えに伴い休館中ですが、同じ場所での再開を予定しています。デジタルミュージアムでは、展示室を3DCG化し、当時の空間を忠実に再現。現在は絵画のみの展示ですが、今後は陶磁器などの立体作品も視野に入れています。また、東京都三鷹市に新設した「出光美術館・展示室」(住所:東京都三鷹市大沢3-10-31)では年4回の陶磁器展示を行っているほか、今後各地で出光コレクションの展覧会も開催予定です。



詳細はこちら

丸紅ギャラリー

丸紅ギャラリーは、2021年11月に丸紅ビル(竹橋)3階に開館しました。1858年の創業以来、繊維業を通じて蒐集・保全してきた江戸時代を中心とする染織品(着物、能装束など)や、1960〜70年代に絵画輸出ビジネスを通じて入手した西欧絵画・近代日本絵画、染織図案などを主軸に多彩なコレクションを所蔵しています。これらのコレクションを中心とした多様なテーマの企画展を開催しています。丸紅ギャラリーのコンセプトである「古今東西の美が共鳴する空間」をお楽しみください。

【住所】東京都千代田区大手町1-4-2 丸紅ビル3階
【問合せ先】gallery@marubeni.com
【開館時間】10時〜17時(入館は16時30分まで)
【休館日】日曜日、祝日、年末年始、展示替期間
【入館料】一般500円

詳細はこちら

※現金利用不可。交通系IC、クレジットカード、QRコード決済などのキャッシュレス決済をご利用ください。
※高校生以下、障がい者手帳をお持ちの方とその介助者1名は無料
交通:東京メトロ東西線竹橋駅(3b出口)より徒歩2分、千代田線大手町駅(C2b出口)より徒歩6分、半蔵門線・都営地下鉄神保町駅(A9出口)より徒歩7分
常設展はございません。次回展につきましては上記QRコードをご確認ください。

Oh MY Map!

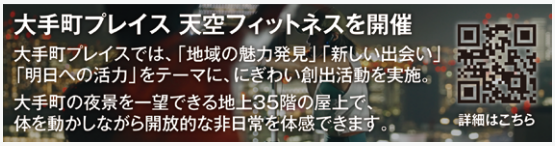
Oh MY Map!
OMY Smart City

見どころ満載の大手町・丸の内・有楽町をマップ片手に回遊!「Oh! my map」でまち歩きが楽しく!

千代田区防災ポータルサイト アプリ

発災時の避難情報や被害状況から平時の公共交通機関の運行状況・気象情報まで、千代田区の防災情報等を簡単に確認することができます。ぜひダウンロードしてみてください!

ADVERTISEMENT



当協議会では、On!56号(掲出予定期間:2026年3月〜2026年9月)に掲載する広告を募集いたします。

お問合せ:contact@tokyo-omy-council.jp
下段のQRコードからお申し込みをお願いします。

about On!

『On!』のタイトルは「Old but New」の頭文字に由来するものです。新旧の魅力がともにあり、常に前進し続ける大丸有エリアのまちづくり情報やおすすめスポットをご紹介しています。

On!

一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会
〒100-8133　東京都千代田区大手町1-1-1
TEL03-3287-6181 FAX03-3211-4367
https://www.tokyo-omy-council.jp/

On!バックナンバー、広告のお申し込み、大丸有まちづくり協議会のInstagram、読者アンケートはこちらから

大丸有まちづくり協議会:森下尚、吉本朝子 / 制作・編集:good mornings株式会社 / デザイン・アートディレクション:株式会社LAID BUG / 撮影:北浦汐見